

YOUTH ユースサービス SERVICE

若者を考える、若者と考える

若者と支援者をつなぐ機関誌
VOL.
18

やっぱり就職問題

「なに悩む新4回生」

京の大学生 100 人に聞く

若者の就労を考える





子どもの世界の不条理さ

「木かげの家」相談室主宰
田中 研三



「チャイルドライン京都」という子どもの専用の電話に関わっています。全国的なシステムですが、京都のチャイルドラインだけでも年間におよそ1万件の電話を受けています。

なかでも子どもたちの訴えで一番多いのが、いじめを含めて学校での友人関係にまつわる悩みです。この傾向は小学生から高校生までのどの年齢層でも変わりがありません。

「どうすればいいですか」との問いかけとともに深い苦悩が語られます。子どもたちはチャイルドラインに電話をかけてくるまでに、親や先生に相談していることも多いのですが、たいてい場合、通り一遍の指導や仲直りではどうにもならない子どもの世界の不条理さに打ちひしがれています。

学校での人間関係がこんなにまで子どもの苦悩を深いものにして原因の一つに、子どもの地域での遊び仲間と学校でのクラスメートと同じになっていることにあります。

異年齢を含めより幅広い人間関係や多様な居場所を、地域のなかで子ども自身の力でつくることのできる場を提供することこそ、緊急に求められているのではないのでしょうか。

(京都市ユースサービス協会評議員)

イラスト 厚焼サネ太

14

ユースかわら版
演劇ビギナーズ20年記念誌

ほか

12

青少年活動センターのページ
ふれあい事業の拡充

サポートステーション

10

若者の就労を考える

日本とドイツの事情

8

育てよう寄付文化

青少年の自立支援へ温かい心を

7

ねっとわーく 魔法にかかったロバ(まほろバ)

3

特集 やっぱり就職問題

「なに悩む新4回生」

京の大学生100人に聞く

ユースサービスの理念

子どもから責任ある大人へと成長する青少年を支援しています。

家庭、学校、地域社会、職場ほか、青少年が自主的な活動場面への参加を通じて、社会と交わり、自身の興味や関心を豊かにし、必要に応じて、助言、情報、または多様な人的・物的資源が得られるような機会を提供します。

〔表紙の花〕

モッコウバラ

中国原産の常緑性のつるバラで、香りのよい小さな花を沢山咲かせる。性質が頑強で栽培がやさしいので庭園などで、アーチやフェンスなどによく用いられる。

高校卒業

- 地域全体を学校と捉えた「コミュニティ共育」
也 或こ 出で、兼マは本演を行って、います、
- 選べる登校日数、自分のペースで卒業を目指す
- 安心の学習サポート

中学の復習から学べる 大学受験もサポート

選べる2つの 高卒

私たちは若者の「高卒」を応援します!!

高卒資格

確実に

国が認める高卒認定試験合格を目指します

- 親身なサポート
- 学びやすい学習スタイル

通信科 通学科

中卒・高校中退で
社会人・主婦の方

第一学院高等学校 京都キャンパス 通信制高校 (広域通信・単位制)

〒600-8418 京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 TEL 0120-761-080

第一学院高校

検索

www.daiichigakuin.ed.jp

全国68キャンパス (平成25年4月時点)

第一学院高認予備校 京都校 通学科 通信科

〒600-8418 京都市下京区烏丸通松原下ル五条烏丸町407-2 TEL 0120-936-358

第一学院高認

検索

www.daiichigakuin-kounin.jp

受付時間: 10:00~18:00(日・祝除く)

「なに悩む新4回生」

京の大学生1000人に聞く



北青少年活動センター チーフユースワーカー 宮川知子

大学の新4回生は、最終学年を迎えました。以前は、単位をほぼ取得、あとは、卒業論文だけの大学生らしい青春を満喫する時期でしたが、近頃は、就職難で、早い時期から就職活動を始めています。

京都市ユースサービス協会は、京都市内の立命館大学、龍谷大学、京都産業大学、大谷大学の4大学の新4回生(男女各50人)を対象にアンケートを行い、現在の悩みや将来に対する思いを聞きました。

アンケートの対象は2014年1月現在の3回生で、時期的にも最大の悩みや不安は就職についてでした。別表のように、6つの質問に答えてもらいました。トータルで多い順に並べましたが、男女の違いも出ました。「将来の職業」については、教職員などの人と関わる仕事が多い学生5人、女子学生16人と分かれました。「就職活動で優先すること」で、男女とも「仕事の内容」が第1位。「職場の人間関係」や「自分を生かせる」については、男女差がありました。

内閣府の「第8回世界青年意識調査」(2007年)によると、「職業選択の重視点」でも、日本の青少年は「仕事内容」がトップで「職場の雰囲気」は3位、「自分を生かすこと」は5位と京の学生アンケートとほぼ合致しています。

した。日本以外の4か国(韓国、アメリカ、イギリス、フランス)では、「収入」を重視した答えが多かったようです。「今一番気になっていること」では、「就職活動中、今まで見えなかった世界の動きが気になる」「景気の悪さや就職難についても肌で感じる」「平和な社会を望む」といった一方で、自分の進学や将来について悩んでいる大学生の声が多くみられました。

自由記述の中では、「就職活動の情報以外に、地域活性化のため学生への支援や安心して暮らせるまちづくりに貢献したい」といった声もありました。

また、「大学は学問を修める所で就職予備校ではない」と、就職活動で多くの時間や労力が割かれてしまうことの疑問や憤りなどをぶつけ

てくる学生もいました。就職活動の早期開始の要望や「学費が高いためにアルバイトなどに時間を取られ、学問に専念する時間が少ない」という意見も書かれました。しかし、「行政や企業、大学、地域社会に望みたいこと」について、特に、政治に対する意見は、ほとんどみられませんでした。

現在、京都市内7青少年活動センターで実施しているさまざまな体験やボランティア活動、地域活動についても、大学生が就職活動などで忙しいため、長期的な参加ができない、という



学生が多くなっている、継続的に取り
組みづらくなる傾向にあります。
私たちとしても、「学生時代にいろい
ろな経験ができたので、今の自分がある」
「これからの社会や政治について考え、自
分なりに取り組みたい」と言える青少年が増
えるよう、青少年の声を生かした事業やコー
ディネーターを実践し、出合いや気づきの機会
を提供していきたいと考えています。

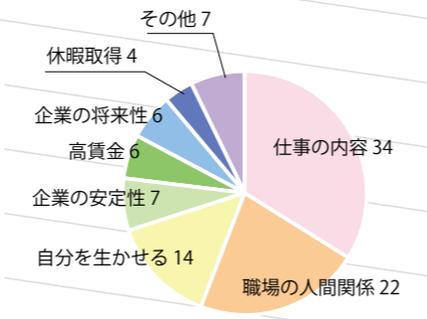
アンケート 「京都の大学新4回生 100人に聞きました」

あなたは将来どんな仕事をしたいですか

教職員など人とかかわる	21(男5、女16)
金融・商社 商品営業	11(男6、女5)
社会貢献度の高い仕事	8(男4、女4)
学芸員	4(男4)
事務・経理	4(女4)
公務員	3(男3)
福祉系	3(女3)
スーパープログラマー	2(男2)

就活で最優先する条件は何ですか

仕事の内容	34(男17、女17)
職場の人間関係	22(男14、女8)
自分を生かせる	14(男3、女11)
企業の安定性	7(男5、女2)
高賃金	6(男6)
企業の将来性	6(男2、女4)
休暇取得	4(女4)



今一番悩んでいること

就職のこと	68(男30、女38)
生活費の心配	10(男6、女4)
勉強・進学のこと	8(男5、女3)
生きがい	3(男3)
自分の健康	2(男2)
恋愛・結婚	2(男2)

いま、最も気になること

就職問題	22(男9、女13)
将来のこと	6(女6)
進学	4(女4)
政治の行方	3(男3)

どんな雇用形態を望みますか

正規職員	88(男44、女44)
契約職員	1(女1)
パート・アルバイト	1(男1)

行政や企業、大学、地域社会に望むこと

働きやすい職場環境	10(男5、女5)
大学の授業料を下げて	4(男4)
安心して暮らせる環境	3(男2、女1)
中小企業の説明会不足	2(男2)
経済の復興	2(男2)
福祉系職場の待遇改善	1(女1)
採用時の面接重視を	1(女1)
育児休暇の取れる職場	1(女1)

社会に飛び込む 勇気を

京都産業大学ボランティアセンター
ボランティアコーディネーター

井上 泰夫

窓口に来る学生が語る「就活への不安」は、実は、正体の分からない「社会への不安」そのものではないか、と感じるようになりました。学生たちの社会へのイメージは非常に限定的です。その場合、就活と同時にいきなり現実と直面することになってしまいます。そのため、就活までに社会と関わり合う機会をつくっておくことが重要だと考えています。大学には、インターシップやボランティアなど、地域社会と密接につながる機会があります。そうした仕組みを活用し、社会に飛び込む勇気を持ってほしいと願っています。



生活の安定が一番 2学生にミニ・インタビュー

アンケートに関連して若者の生の声を聞くために、立命館大学産業社会学部の新4回生、橋本千夏さんと太田稔君にインタビューをしました。

―就職活動はどうしてる？

橋本 化粧品や食品業界を目指して就活中。母が栄養士で、自分がアレルギー持ちだったりで興味があります。親の生活を見て、こういう生活したいとか生活水準は落とさたくないとか、また、親の忠告も選ぶ基準になっています。

太田 僕は、大学院進学を考えています。最終的には実家の七宝焼きの会社を継ぐつもり。歴史の深い京都に来て家業を大事にしたいという思いが強くなりました。

―非正規という選択肢は？

橋本 正社員というのは大きい。生活がかかってくるので…。授業でその違いを学んで怖くなりました。もちろん、正社員じゃない可能性もあるし、流れに身を任せています。今の世の中、そういう感覚じゃないと生きて

―結婚についてはどんなイメージ？

太田 「勢い」かな。早めに身を固めてから仕事に専念したい。結婚相手にも仕事に対する理解が欲しい。

橋本 いつかは結婚して子供が出来て安定した生活を求めたいという気持ちはあります。でも、結婚で自分のペースを乱したくない。やりたいことをやり続けたいし。親からは「してね」と言われるけど、今の時世を考えると、無理という感覚と一人でも生きていけるという感覚がある。結婚は選択肢の一つかな。

―今の日本をどう思う？ 政治とかに関心ある？

太田 無いです。どうこうして変わるもんでもないです。投票にも意図的に行かないようにしています。選挙に行く時間がもったいない。

橋本 私は、行く気はあるけど住民票の関係で行ったことない。一応それぞれの考えを理解しようとはする。でも多数派の意見を変えることは難しいし、若い人の意見を聞いてくれない。ゆとり世代といわれているけど、なりたくてなかったわけではない。テレビを観ていると何いつてんだらうとかすごく思う。

―今一番の悩みは？

橋本 とりあえず一年後、生活できていたらいいかな。
太田 恋愛・結婚を含めて、精神的に安定したい。「金銭的な余裕」精神的な余裕ではないと感じている。



(聞き手 下京青少年活動センター ユースワーカー 岩見 晃宏)

若者の悩みとサバイバル戦略

立命館大学産業社会学部准教授 斎藤真緒

「ゆとり教育」を受けてきたいまの若者たちは、「さとり世代」と呼ばれている（原田曜平『さとり世代―盗んだバイクで走り出さない若者たち』角川ONEテーマ21、2013年）。堅実で高望みしない、恋愛に淡泊などの特徴が指摘されているが、たしかに、今

回の調査でも、「さとり世代」ならではの断片が垣間見える。新しいことにチャレンジするよりも、これまで作り上げてきた家族や友人との関係を重んじる傾向にあり、結婚と仕事の両立を「欲張り」と感じるなど：

めるべきなのだろうか。単に、若者の気持ちに「寄り添う」だけでは問題は解決しない。まずは、大人自身が作り出してきた教育・職場・生活環境、ひいては政治に向き合い、再点検し、よりよいものにしていくために動き出すことから始まるのではないだろうか。それが、若者に「寄り添う」ための重要な前提条件であると考える。そうした取り組みなしに、若者の社会・政治不信を払拭することは決してできないだろう。

しかし、今日の若者が、どの世代よりも現在の生活に対する満足感が高いことを、そのままた、現状に対する無条件の肯定として理解してしまうのは、あまりにも安直であろう。アンケート結果では就職活動を中心とする将来への強い不安が示されている。学業が疎かになってしまっている矛盾への不満。どんな仕事をしたらいいか、じっくり悩む時間すらも十分に与えられていない。

この原稿を執筆している現在は、ソチ・オリンピックの真っ只中である。10代を中心とする若者の活躍には目を見張るものがある。彼らには、一昔前の選手のような「使命感」はあまり感じられない。オリンピックという独特の緊張感を、自分たちが一番楽しんでいる。彼らなのすがすがし

い姿は本当にまぶしいばかりである。こうした柔軟な適応力は、自分の生き方を切りひらく重要な潜在力となりうるだろう。

そもそも「さとり世代」とは、頓挫した「ゆとり教育」の負の遺産の責任を若者へと押しつける大人の側の勝手な「責任逃れ」の言葉でしかない。大人の無責任な振る舞いを直感的に見透かしながら、自分の生き方を堅実に模索している姿は、若者なりの、上の世代への怨嗟を通り越した、新しいサバイバル戦略なのではないだろうか。



写真協力 大谷大学



魔法にかかったロバ（まほろば）

●ミッション

「若者と社会をつなげる」ことを目的に、多様な世代や立場の人たちが、それぞれのアイデアを表現できる場として、日替わり店長の飲食店を運営しています。出店は半日だけでも、空きがあれば毎週でも可能です。飲食物の提供をかねて、ワークショップやイベントなど多様な企画を実現できる場所作りをすすめています。

●設立

開業は、2011年11月1日です。その年の夏、同じ一条通に店を構える飲食店が、日替わり店長のアイデアを模索していました。そこへ、当時は会社員だった山崎達哉さんが退職と起業を決め、代表に就任。M-projectを立ち上げました。現在もM-projectは「若者と社会をつなげる」をコンセプトに、魔法にかかったロバの運営を主に活動しています。運営事務局のメンバー



は、山崎代表のほか学生9人、マネジメント顧問が2人です。法人格は持たず、山崎代表の個人事業としています。

●わたしたちの活動

日替わり店長の要件は、「まほろバ」の理念に賛同していただける方がどつかの一点です。

アルバイトや一般就労などと違って年齢制限もありません。新人店長には料理の献立、器材の使い方、接客指導などをして出店料を頂くシステム。これまで、高校生パティシエから京都市長、73歳のお母さんや元気一杯の学生店長ら、総勢200人100組以上の店長に出店して頂きました。毎昼夜の日替わり店長が、得意の料理や伝えたいコンテンツを用意し、お客様の好みに合わせていきます。お客様は日によってまちまち、イベントなどで売り上げも変わります。そんな中、これまで全く関係のなかったお客さんと店長がつながって新しい関係が生まれた

り、店長同士の共同出店が実現したり、「まほろバ」を通して多様なつながりが生まれています。月に一度は、「まほろバ」を貸切り、「店長の集い」を行います。都合



のよい店長が集まって大宴会です。ベテラン店長のフランス料理が振舞われ、舌の肥えた学生のうまい日本酒が注がれ、本格テキーラで乾杯し、カウンターいっぱい自家製のパン料理が並ぶ時も。テーブル席では占い師によるタロット占い、ボードゲームのグループや、手品を楽しむ店長も…。「まほろバ」には、さまざまなアイデアと特技を持った人たちが集います。そして、それを楽しんでくれるお客様がいらっしやいます。それぞれの楽しみ方を見つけ、新しいつながりをつくっていきけるように、心からそう願って、日々営業しております。

電話 075-463-6866

住所 602-8374 京都市上京区御前通一条西入ル

URL <http://ameblo.jp/mahoroba-kyoto/p>

育てよう寄付文化

青少年の自立支援へ温かい心を

東日本大震災から3年。その後も全国各地の大雨大雪台風被害など自然災害が相次いでいます。現地では復興を願って立ち上がる被災者、支援活動が続けるボランティアグループ、寄付金を出し合っ
てその活動を支える人たち。こうした互助精神は、阪神・淡路大震災に次ぐ東日本大震災などの大災害を契機に生まれ、寄付文化を根付かせ花開いてきました。さらに、公益法人制度改革に伴い、公益法人への寄付に対する税制の優遇措置が整備され、寄付ごころを後押ししています。

支援しています。各青少年活動センターは独自のテーマと施設設備を活かした自主事業を展開しています。
京都市ユースサービス協会は、新年度スタートの2014年4月から協会の理念や活動について理解をいただき、事業を指定しての寄付、協会全体への寄付などの受付をスタートいたします。皆様方のご協力をお願いいたします。

(協会事務局 米原 裕太郎)

最近、NPOや市民活動の支援を目指した市民財団が増えてきました。2009年設立の京都地域創造基金をはじめ、全国各地で市民立の団体が誕生し、集まった寄付金はその地域の団体活動に生かされています。公益財団法人京都地域創造基金の深尾昌峰理事長に聞くと「近頃は、信託銀行や司法書士に財産の遺贈について相談する高齢者が増えています。現金は家族に配分し、1割くらいは寄付へ。また、遊休農地や山林などの不動産の有利な処分、遺贈を考えるケースもあった」とのことです。寄付ムードが盛り上がっています。
次世代を担う青少年の支援活動が続ける京都市ユースサービス協会は、公益財団法人として広く一般市民や企業・団体から寄付を受けやすい組織に生まれ変わりました。

課題を抱える青少年を対象とした居場所事業や就労体験事業

青少年支援を行う他団体との事業

青少年ボランティアグループの活動支援

寄付金の用途を指定した様々な事業

京都市ユースサービス協会

寄付者

■寄付の種類

- ①京都市ユースサービス協会協賛寄付
京都市ユースサービス協会の運営に対する寄付システムで、1口1,000円から何口でも。より専門性を持った人材育成のための研修や、青少年支援を行う他団体との連携などに活用します。
- ②事業指定寄付
京都市ユースサービス協会、各青少年活動センターが実施する事業に対し、指定寄付を行うことで、寄付金の届け先と用途が明確になります。



■振込方法

口座へ直接お振込みください(郵便振替)
口座番号 00950-2-172487
加入者名 公益財団法人 京都市ユースサービス協会
※払込書が必要な方は電話またはメールにて京都市ユースサービス協会へご連絡ください。
今後、クレジットカード決済についても運用していく予定です。

■寄付に対する税制優遇について

京都市ユースサービス協会は、京都府より認定を受けた公益財団法人です。当協会への寄付に対しては税制の優遇措置が受けられます。以下2つの控除を受けることができます。

- ①所得控除
寄付金のうち、2,000円を超える額が所得から控除されます。
※ただし総所得の40%が限度
- ②府民税控除
寄付金のうち、2,000円を超える額の4%が府民税から控除されます。

※京都府内に住民票のある方が対象となります。

※優遇措置を受けるためには、当協会が発行する寄付金受領証明書が必要です。ご希望の方はお申し付けください。

※控除を受けるためには確定申告をする必要があります。

詳しくは、京都市ユースサービス協会事務局(電話 075-213-3681)まで、お気軽にお問い合わせください。

昨年10月から今年3月にかけて、京都市ユースサービス協会に5件の寄付がありました。協会の事業や青少年活動センターの事業に共感して取り組む江田努さん・薫さんご夫妻からは居場所事業や就労支援の一助にと頂きました。
また、磯田利佳子様 匿名希望様 元ラウンドアイズ京都スタッフ様 K・H様の皆様にご寄付いただきました。ありがとうございました。



若者の就労を考える

日本とドイツの事情

青少年にとって雇用の現状と過酷な就職活動は大きな不安要因となっています。今号の特集ページでも採り上げましたが、ここでは若者の就活に関心の深い当協会企画委員の幸重忠孝さんと、先頃ドイツの若者事情を視察したユースワーカー竹田明子さんに、日本とドイツの就労支援について寄稿して頂きました。



過酷な「就活戦争」に思う

京都市ユースサービス協会 企画委員 幸重 忠孝

京都市ユースサービス協会の中にはユースサービスのあり方を中長期の視点で考える「企画委員会」という組織があります。外部の専門家と京都市ユースサービス協会で働くユースワーカーたちが集まって年間10回程度活動しています。2013年度は企画委員会内にワーキンググループをつくり、時代と共に社会から求められるユースサービスについてモデル事業を作っていくことにしました。今回は、そのうち「若者の就労」をテーマに活動しているワーキンググループからの報告です。

1973年生まれ私が思春期や青年期を過ごした時代には、「受験戦争」という言葉がありました。その世代が親世代となった現在、若者たちは「受験戦争」に代わって「就活戦争」と呼ばれる、過酷な競争による就職活動に苦しめられています。

京都市ユースサービス協会内にも、若者サポートステーションや子ども・若者総合相談窓口が開設され、就労に関わる相談や支援も年々増えてきています。そのような流れの中で今回、「若者の就労」をテーマにしたモデル事業づくりを行いました。若者と現場で直接関わるユースワーカーや、さまざまな専門家の声を聞く中で、過酷な就活競争の実態とその過酷さ故に、働くことや社会に関わる機会を自ら閉ざす若者の存在が見えてきました。そこで今回はそのような若者をターゲットにしたプログラムづくりを進めてきました。

た。中間報告となりませんが、左記のプログラムを半年かけて作り上げました。

京都市ユースサービス協会で今まで培ってきたプログラムや養成してきた地域若者サポーターを活用しながら、若者の力をこれからの超高齢化社会で役立つ社会貢献型の就労プログラムを行うという新たな取り組み。いよいよ新年度はこの作り上げてきたプログラムを実施していくステップに入ります。今後も『ユースサービス』で、このモデル事業の経過を報告していきたいと思えます。



社会貢献型の就労支援プログラム

- 対象：**就職をしたいと思いながら就活を行う自信がなく一歩踏み出せない学生
- 目的：**社会貢献型の就労体験で働く喜びと自分に自信をつけることで就労意欲を高める
- 事前プログラム：**コミュニケーションスキルを高めるグループワーク
※各青少年活動センターで行われているプログラムを活用
- 就労プログラム：**独居の高齢世帯への配食と見守り支援
※就労プログラム中は地域若者サポーターによるパーソナルサポートを受ける
- 修了プログラム：**成長を確認する報告会と今後の就職活動に使える証明書の発行

ドイツの就労支援

中京青少年活動センター ユースワーカー 竹田 明子

2013年11月24日から2週間、文部科学省主催の日独青少年指導者セミナーでドイツへ行きました。今回のテーマは「困難を有する青少年の社会への移行」で、全国から青少年育成・支援に携わる研修メンバー8人が参加、ボン、デュッセルドルフ、ベルリンなど各地の取り組みを学びました。ドイツの労働を語る時、職業の資格制度とそれを支えるデュアルシステム（現場と理論の二元職業教育）が挙げられます。小学4年生の時点で進路選択があり、希望の職業に就くための道筋、ステップを明確にして早期に職業への方向付けがされます。多くの若者は、職業訓練を経て資格を取得し就労します。EUの中でも失業率が低く、職種・資格が自分のアイデンティティを形成するという意味でもドイツの重要なシステムですが、それに適応できず社会への移行に困難を抱える若者と出会いました。ドイツでいう「困難を有する若者」とは、「職に就いていない」または「職業移行へのステップに乗れていない」状態にある若者です。その若者の困難さ（不登校・貧困・移民など）に対して、各専門家が本人に寄り添い、より良い制度を使ったり事業を作ったりしながら連携し支援を進めています。

デュッセルドルフでは、青少年にとって敷居の低い相談窓口「ジョブセンター DZJUS」を訪ねました（25歳までの青少年が対象）。職業相談所やアクティブ・カフェ、家族や移民へのサービス、薬物相談などの関係機関が同じ施設にあり、就労

に向けた多様な課題に対して若者に寄り添う支援ができていました。他にも、予防的な取り組みとして、13〜14歳の生徒対象の「体験ハクア」という職業方向付けと生活設計のための対話型事業がありました。大人の干渉を受けず自由にできる部屋やタイムトンネルなどの6つのプレイ・ステーションがあり、グループで順番に巡りながら、将来的にどのように生活をしたか、働いてみたいかを参加者同士で話し合います。

ケルンの不登校生徒を受入れる車輛整備士の作業場は、九九のかけ算表や生活マナーの絵が掲示され、作業しながら教科や行動を学び直す場になっていました。

ドイツでの実践から、職業資格を得る前に職業訓練に耐えうる準備ができていない状態（レディネス）を、若者自身が獲得していくことが大切なことだと感じました。日本とは、社会システムや若者の困難な状態は違いますが、私たちが持っている相談機能や居場所機能、グループ体験や中間的就労などの取り組みは、「レディネス」が獲得される場としても有効なことだと再確認することが出来ました。

ケルンの不登校生徒を受入れる車輛整備士の作業場は、九九のかけ算表や生活マナーの絵が掲示され、作業しながら教科や行動を学び直す場になっていました。



青少年活動センターのページ

ふれあい事業の拡充 26年度若者サポートステーションの新しい展開

平成18年度に全国25カ所でスタートした若者サポートステーション事業は、25年度に160カ所まで増えました。

ここで就労支援、特に無業状態にある若者のうち、非求職者への支援を行っています。総務省が行った最近の就業構造基本調査によると、京都市の15～39歳の若者の中には非求職者が38,700人いるといわれています。特に15～24歳では19,000人と、大阪市よりも多く、関西では一番多い地域となっています。京都では毎年サポステ利用者は増えてますが、対象人数が多くて、個別の相談だけでは支援が追いつかない状況です。

そこで、26年度は事業の様相を少し変えて、より就労に特化した集団プログラムの頻度を増やすことにしました。そのプログラムも“就活基礎力”と“就活実践力”の2つに分けました。

就活基礎力に関しては、就活における基礎的な能力を会話力、自己理解、主体性、課題解決、協働性、ストレス対応力、自己表現などに分けて、それぞれに対応するプログラムを行います。就活実践力に関しては、キャリアデザインに始まり、面接や履歴書講座、企業研究などを行います。これらを頻繁に行う事で、利用者の方は自分の現状にあわせて計画を立てることができ、課題を明確にすることで、達成感やモチベーションを上げることを目指しています。

これらを青少年活動センターと提携し共同作業で実施していきます。青少年活動センターはボランティアなどの集団活動や、グループワークなどを得意としており、連携は非常に有意義です。もちろんプログラムを通してセンターの利用者などとお会いする事で、狭くなりがちな価値観を広げることにも可能だと思っています。

他には、農業体験だけだった中間的就労の場も、広げていけるよう模索します。働くことを学ぶには、やはり働く場で実感することが一番早いと思います。

もちろん、個別の相談に関しては、気持ちの整理を行う“こころの相談”、就職の方向性やテクニックを学ぶ“キャリアの相談”無業状態の若者の保護者を対象とした“保護者相談”は継続して行います。

これらは、若者の就労支援の一部分です。本人や家族だけに問題があるわけではなく、経済状況や企業の動向など、さまざまな要因が絡んできます。そのためにも関係者、特にサポーターの皆様や企業団体のご助力、ご援助をお願いしたいと思っています。特に働く場や職業体験の場を教えてください、提供して頂ければと考えています。

新年度も京都若者サポートステーションをよろしく申し上げます。

(京都若者サポートステーション 統括コーディネーター 松山 廉)

広がる支援の輪

『ひきこもり・不登校～家族や周りの人たちができること～』 講演会と交流会

子ども・若者支援室では、昨年12月7日、中京青少年活動センターで「ひきこもり・不登校～家族や周りの人たちができること～」と題して、講演会と交流会を実施しました。京都市のひきこもり人口は推計8,800人ともいわれています。当日は、京都市内外から10代～70代のひきこもり・不登校に悩む本人やその家族、支援者や関心のある方ら131人が集まり盛況でした。

存在をまるごと受けとめる大切さ

第1部の講演会では、立命館大学教授の高垣忠一郎さんが、ひきこもりや不登校の若者に対する理解と望ましい接し方について話されました。

高垣教授によると、不登校は1960年代より存在し、1970年代半ばから急増したそうです。教授は、この不登校現象は子どもたちが“自分を取り戻す作業”をしているのだといいます。自分を取り戻せずに学齢期を過ぎた若者が“ひきこもり”状態になることも多く、“不登校からひきこもりへ”といった流れを指摘します。教授は、不登校・ひきこもり現象の要因を“社会”に求めています。“教育をお金で買う社会”で不登校現象は増え続け、“企業が労働者として若者を抱え込む社会から、企業が即戦力として役に立たない若者を排除する社会（包接社会から排除社会）”へ移行する過程でひきこもり現象は増えているそうです。

教授によると、人間は2つの物差しを持ちえているとのこと。それは“自我（エゴ）”と“命（魂）”で、自我は社会で生きるために必要な部分、命は自分の存在そのものに必要な部分です。親には「親にとって」良い子が良い子でないかの目で見られ、社会に出れば「会社にとって」役に立つか立たないかの目で見られる。いわば“自我”が大事にされるのです。そのことで、子どもや若者たちは強い自己否定に苛まれるといいます。

不登校・ひきこもり状態にある子ども・若者は“自分が自分であって大丈夫”という“命”のレベルでの「自己肯定感」を持てるようになることが大事だと教授は指摘します。そのためには、評価ではなく存在まるごとを受け止める愛が必要で、彼らの家族自身が余計な手出しは控え、平和で穏やかな心で居ることが大切だと強調します。また、社会と接点を持つためにも、親の会や居場所活動など外部資源を積極的に活用するよう会場の参加者に呼びかけました。

交流会で繋がる支援の絆

第2部の交流会では、若者の社会参加を支援している団体の活動紹介を行い、参加者との交流を図りました。ブースへの出展団体は、今年度、NPO等民間団体の子ども・若者支援促進事業に採択された9団体です。ブースではそれぞれ団体の特色を生かした紹介が活発に行われました。参加者の大半を占めていたひきこもり・不登校状態にある当事者家族にとって資源と直接“繋がる”様子が見られました。また、当事者やその家族以外に、支援者同士の交流も生まれており、お互いに顔の見える関係で繋がることができ、不登校・ひきこもり支援の輪が広がる貴重な機会となりました。



(子ども・若者支援室 コーディネーター 繁澤 あゆみ)

ユースから版

事業案内

きたせい卓球フリータイム

昨年度から北青少年活動センターで実施しています。多い日で10人くらいが参加する日もあり、ワイワイと卓球を楽しんでいます。今年度からは、第1木曜日、第2金曜日、第3土曜日に実施します。地域若者サポーターが基本を教えてくれたり、対戦相手になってくれたりもします。ぜひ、予約なしでふらっと、気軽にご参加ください。

居場所事業「街中コミュニティ」

人と接する機会が少ない、コミュニケーションが苦手、不安はあるけどちょっと頑張ってみたい…、そんな若者を対象に、お茶を飲みながら話をして、時には外出などをして過ごします。毎月第2・4金曜日 14時半～16時半（登録期間：最長2年間）お問い合わせは、中京青少年活動センターまで。

事業レポート

「受験カフェ」やましな。

1月19日（日）、山科青少年活動センターに「受験カフェ」がオープンしました。ボランティアの協力で、自習室利用者とゆっくり話すことができました。受験を控えた高校生が、現役大学生に熱心に質問をする様子もみられ、ふだん関わりの少ない自習室利用の若者と語り合えるよい機会となりました。

地元商店街で「餅つき大会」



下京青少年活動センターでは、1月25日（土）に七条通七本松付近の路上で餅つき大会をしました。ボランティアが企画し、備品や会場の手配、当日のサポートなど商店街の方々の協力を得ました。400人を超す来場者があり、商店街には長蛇の列ができました。餅つきだけに多くの人をくっつけるイベントになりました。

ライブキッズ2014

京都市ユースサービス協会主催、若者の音楽とダンスの祭典を3月16日（日）、京都市右京ふれあい文化会館で行いました。予選通過のミュージック11バンド、ダンス25チームが出場しました。主催事業として、24回目の実施。ステージをゆるがす競演の結果、グランプリ賞はダンス部門が、中高生「チューイングガム プラザーズ」、一般「たまとうる～」、音楽部門は、中高生「ゆき（パウンダリー）」、一般「J-seeds」が獲得しました。

パフォーマー KAZUMA ステージ

昨年、12月21日（土）南区出身のパフォーマー KAZUMA が一日だけのスペシャルステージを南青少年活動センターで開催。アクロバティックなパフォーマンスや親子で楽しめるバルーンワークショップを行い、来場者の目を楽しませました。「何故この道に進んだのか」「ケガからの苦悩と復帰まで」などの想いも熱く語りました。



フィリピン台風被害の募金活動

昨年11月の台風渦で甚大な被害を出したフィリピンに関わりの深い伏見青少年活動センターが他6センターにも募金箱への設置を呼び掛けて活動しました。2ヶ月後の今年1月10日にまとめて、計71,592円を「京都フィリピン留学生の会」へ届けました。



「演劇ビギナーズユニット 20周年記念活動報告冊子」完成!

1994（平成6）年の5月30日に始まったこのプログラム。昨年20回目の公演を無事終了することができました。そこで、20周年を記念して活動報告冊子を作成しました。冊子は、記念誌の要素と活動報告からなり、事業評価の試み、という意味合いが含まれたものになっています。

主な内容をご紹介します。
1期から20期までの公演データ記録／参加者や演出担当、プロデューサーなど、16人の方々に書いていただいた参加体験談から、その体験の意義をまとめたもの／作品創作に関わっていただいた30人の方々に書いていただいた演劇ビギナーズユニットへの思い／7月に実施した20周年記念事業の報告／20期分の公演データで使用されたもの以外の写真集／1期から20期までの舞台写真コレクション…などなど。



※A4サイズ42ページで、700円で販売しています。購入方法など、詳しくは東山青少年活動センター（075-541-0619）まで

読者の声

不安定で将来の見通しが見えにくい世の中ですが、自分たちの夢を話し合える仲間の中で自分を見出し、しっかり歩いていってほしいと思いつつ、いつも読んでいます。私も若者の将来を応援していきたいと思っています。

下京区 七条きねや
奥村 美智恵

7つの青少年活動センター

東山青少年活動センター

住 所：〒605-0862 京都市東山区
清水5丁目130-6 東山区総合庁舎2階
TEL：075-541-0619
FAX：075-541-0628
URL：http://www.ys-kyoto.org/higashiyama/

南青少年活動センター

住 所：〒601-8441
京都市南区西九条南田町72
TEL & FAX：075-671-0356
URL：http://www.ys-kyoto.org/minami/

北青少年活動センター

住 所：〒603-8165 京都市北区紫野
西御所田町56 北区総合庁舎西庁舎3階
TEL：075-451-6700
FAX：075-451-6702
URL：http://www.ys-kyoto.org/kita/

山科青少年活動センター

住 所：〒607-8086
京都市山科区竹鼻四丁野町42
TEL：075-593-4911
FAX：075-593-4916
URL：http://www.ys-kyoto.org/yamashina/

伏見青少年活動センター

住 所：〒612-8062 京都市伏見区
鷹匠町39-2 伏見区総合庁舎4階
TEL：075-611-4910
FAX：075-604-4910
URL：http://www.ys-kyoto.org/fushimi/

中京青少年活動センター

住 所：〒604-8147 京都市中京区東洞院通
六角下ル御射山町262
TEL：075-231-0640
FAX：075-231-1231
URL：http://www.ys-kyoto.org/nakagyo/

下京青少年活動センター

住 所：〒600-8871
京都市下京区西七条北東野町90
TEL：075-314-5636
FAX：075-314-5640
URL：http://www.ys-kyoto.org/shimogyo/

開館時間 平日：午前10時～午後9時
日祝：午前10時～午後6時

休館日 水曜日・年末年始
(12/29～1/3)

本誌『ユースサービス』の掲載広告を募集します!

当協会編集制作刊行の情報誌「ユースサービス」は、若者とともに若者の現状や未来を考える媒体として、好評を得ています。本誌を通して、企業・団体の広告宣伝活動にご活用いただけます。
発行部数…3,000部（年間3回発行）
配布先…京都市内すべての中学校、京都府内の高等学校や大学、関係する行政機関、厚生労働省、内閣府など中央省庁、全国の地域若者サポートステーション受託団体等のNPO法人・民間団体ほか

〈広告掲載料金 オールカラー掲載〉

全1ページ（縦25.6センチ×横20.9センチ）	5万円
横1/2ページ（縦12.8センチ×横20.9センチ）	3万円
記事下1/4ページ（縦6.4センチ×横20.9センチ）	2万円

広告掲載のお問い合わせ、お申込みは、
京都市ユースサービス協会事務局（電話075-213-3681、Fax075-231-1231）まで。
次回、8月1日付発行の19号への広告掲載申込は5月末日までをお願いします。

発行
公益財団法人
京都市ユースサービス協会

〒604-8147
京都市中京区東洞院通六角下ル御射山町262
京都市中京青少年活動センター内
tel：075-213-3681
fax：075-231-1231
E-mail：office@ys-kyoto.org
HP：http://www.ys-kyoto.org

印刷：株式会社谷印刷所
デザイン：自然堂株式会社



Catch Your Dream

夢をかなえる学校がある!

—普通科目とコース専門科目（希望者のみ）の履修で高校卒業資格を取得

選べる3つの登校スタイル

Schooling×Style

- クラス制** たくさんの友達と接しながら学ぶ
 - フレックス制** 自分で登校する時間帯を選ぶ。大学感覚で学ぶ。
 - 土曜日選択制** 指定の土曜日に登校。少人数の塾感覚で学ぶ。
- ※それぞれの登校スタイルは途中変更が可能です。

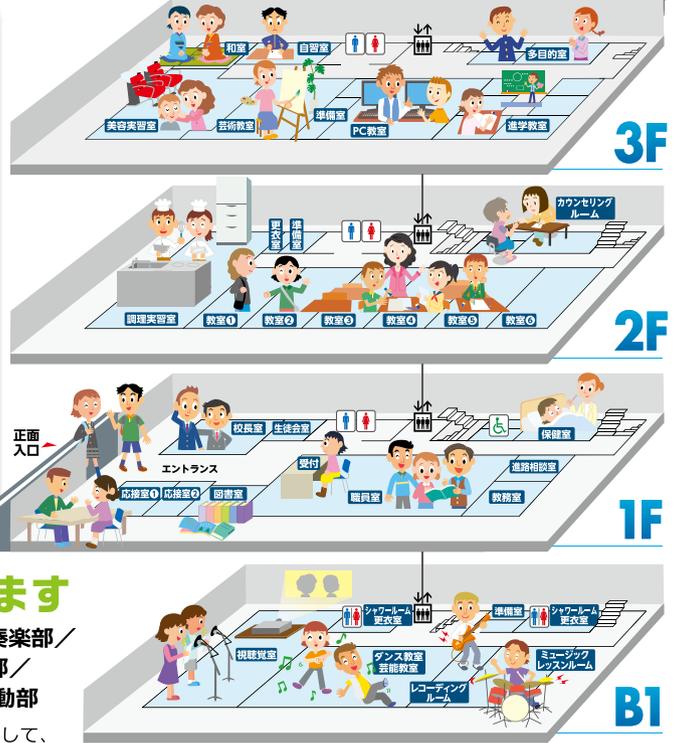


選べる14の専門コース

Special×Course

- 進学
- 調理・製菓
- 声優
- IT
- 理容師・美容師（国家資格取得）
- 動物
- スポーツ
- 外国語
- ダンス
- 美容
- ミュージック
- 芸術
- 芸能
- ファッション

※希望者のみ選択できます。
※専門コースは毎年変更できます。
※卒業単位に20単位まで認定できます。



盛んなクラブ活動が高校生活を彩ります

マンガ研究部/料理部/写真部/ASG部/演劇部/茶道部/吹奏楽部/
軽音部/声劇部/手芸部/健康増進部/Duel Masters部/天文部/
テニス部/卓球部/バスケットボール部/フットサル部/総合運動部

生徒会・保護者会・同窓会・いちの和会（後援会）が連携して、在校生の活動を支援しています。

平成25年4月新校舎完成



広域通信制・単位制・普通科

つくば開成高等学校 京都校

転入学や編入学は、随時受付します。 <http://tkaisei-kyoto.jp/> つくば開成 京都 検索

〒600-8320 京都市下京区西洞院通七条上ル福本町406番
TEL:075-371-0020 FAX:075-371-0021

◆JR・地下鉄烏丸線「京都駅」より北西へ徒歩8分 ◆京阪「七条駅」より西へ徒歩16分

